

IP_STUDIO の測定器のデータ表示設定

簡単説明書

[クラウドストレージに box 利用時の設定説明]



Ver.1.3 box

アイティニュース

はじめに

本書は測定器（騒音計、振動計）の 情報をサイネージで表示する方法を簡単に説明します。

Index

はじめに.....	2
1.概要.....	2
2.IP_STUDIO スケジューラー設定.....	4
3.サイネージ（STB）のIP_STUDIO プレーヤ設定.....	5
4.USB ドライバーソフトウェアのインストール.....	6
5.サイネージにデータ取り込みソフトウェアをインストール.....	8
6.サイネージのフォルダー.....	9

※box と書かれているところは、クラウドストレージ box のフォルダーになります。



サイネージは測定器の情報をリアルタイムで表示できます。近隣の住民、通行人に工事現場の情報をすみやかに、正確に伝えることができます。表示用の画面設計と表示スケジュールはIP_STUDIO ホスト（スケジューラー）で設定します。

設定の作業手順

サイネージで計測器の情報を表示するには、各機器の設定、ソフトウェアインストールが必要になります。以下の手順で設定をします。

1. 測定機器の設定

各測定機器については測定器メーカー等の説明書、マニュアルなどをご参照ください。サイネージとの接続は USB ケーブル (A-miniB) を使用します。サイネージには USB 接続端子が 1 つのため拡張 USB ハブをご用意ください。マウス、キーボードの接続も必要になります。

2. IP_STUDIO スケジューラー設定

IP_STUDIO の画面設定 (デザイン)、ファイル設定をします。プログラムの変更はありません。

3. サイネージ (STB) の IP_STUDIO プレーヤ設定

IP_STUDIO プレーヤーの設定

1. IP_STUDIO プレーヤーに測定器データ表示対応プログラムをインストールします。(IP_CTL.exe、IP_PLAY.EXE、最新版は不要)

2. INI ファイルを追加します。ファイル名は IPFILE.INI

4. 測定器メーカーの USB ドライバーソフトウェアのインストール。

5. サイネージ (STB) にデータ取り込みソフトウェアをインストール

IPstage をインストールします。

タスクトレイのアイコンから初期設定をします。

6. サイネージ (STB)、ソフトウェア、DATA フォルダの設定

※スケジューラーのネットワークフォルダー、プレーヤーのネットワークフォルダーは box ないに作成した共通のフォルダーを指定します。

フォルダーの指定は、オペレーションマニュアル、インストールマニュアルアドをご参照下さい。

設定の詳細説明は以下のページをご参照下さい。

2.IP_STUDIO スケジューラー設定

IP_STUDIO スケジューラーのデータフォルダー [IP_DATA 4_HOST] に次の TXT ファイルを作成してあります。

(操作はドラッグアンドドロップです。測定データが入ってないのでヌル (空白) です)

SINDOU.TXT , SOUON.TXT ,

スケジューラーで表示用のデザインをします。

例 : JPEG、png などで背景の静止画を作成します。(サンプル画像 1 点付属)



騒音計は SOUON.TXT、振動計は SINDOU.TXT を空白のところに IP_STUDIO の [T] (テキスト挿入) で設定します。(文字サイズは 100 以上が見やすいです。文字色を赤、背景は白などと設定してください。)



3. サイネージ (STB) の IP_STUDIO プレーヤ設定

IP_STUDIO プレーヤーの設定

1 .INI ファイルを追加します。ファイル名は IPFILE.INI

INI ファイルは T X T です。

```
#####  
#       ファイル リダイレクト設定  
#  
#       書式 : IP_STUDIO 設定ファイル名, プレーヤー参照ファイル名, 表示間隔(秒数)  
#  
#       ※IP_STUDIO 設定ファイル名は、ファイル名のみでパス名は含めないでください  
#       プレーヤー参照ファイル名は、フルパスで指定してください  
#  
#####  
SINDOU.TXT, C:¥Users¥<ユーザー名>¥Box¥DATA¥振動レベル.dat, 1  
SOUON.TXT , C:¥Users¥<ユーザー名>¥Box¥DATA ¥DATA¥騒音レベル.dat, 2
```

フォルダーは 1 同様 [IP_STUDIO4_TERM] です。

注意 : IP_STUDIO3 の場合は IP_STUDIO3_TERM

※クラウドストレージ BOX フォルダーを指定をして下さい。

3.計測器からのデータ取り込みフォルダーの作成

DATA フォルダーを C ドライブのルートに作成します。

4.USB ドライバーソフトウェアのインストール(インストール)

リオン製の測定器を USB で取り込むには、リオン社の WEB から専用ドライバーをインストールします。

インストールが正常に行われた後、デバイスマネージャーでポート COM を参照します。

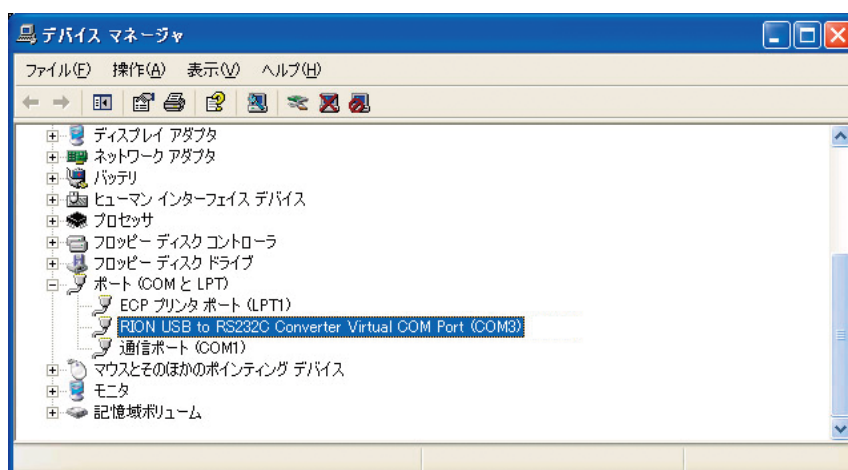
[RION USB to RS232C Converter Virtual COM PORT] が表示されます。

参考ページ：<https://svmeas.rion.co.jp/download/software>

(英文のページもありますので、分かりやすいほうをご利用ください)

各装置装置用のドライバーをインストールします。NL-42 用と VM-55 用

(最新ドライバーでは2つのドライバーを個別にインストールする必要はありません。)



※アイコンに X がついていないか確認します。X がある場合は、再度ドライバーのインストールをしてください。

注意；2 台の測定器を利用する場合（振動計 1、騒音計 1）はポート 2 個追加されます。ここで、表示されるポート番号を IP_STAGE のプロパティに設定します。



この例では 15 と 16 です

(利用環境によって表示されるポートは違います)

ポート番号はそれぞれの環境で違います。また、USB 機器を追加、変更した場合も変わりますので、その場合は再度設定してください。(Windows の特性上固定できません。)


※振動計、騒音計の出力はUSBの設定をしておいてください。これが設定されていないと、ポートにドライバの表示ができません。

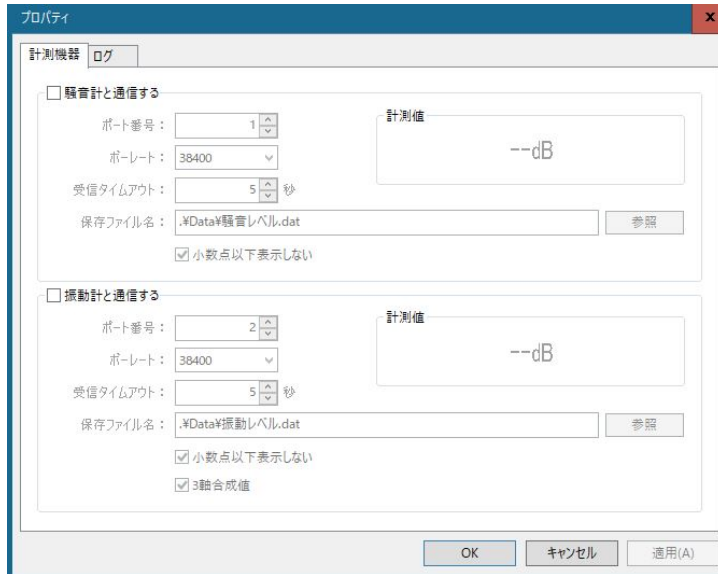
※デバイスマネージャーを表示するにはコントロールパネルから表示します。Windows ロゴを押して、C、P キーをクリックするとコントロールパネルが表示できます。

5. サイネージにデータ取込みソフトをインストール

データ取込み用ソフトウェア [IPstage] をサイネージにインストールします。

IPstage は IPstage を起動中はバックグラウンドで作動して、測定器からデータをリアルタイムで取り込みます。(表示情報は 1 秒毎のデータが自動で更新表示されます。)

IPstage の初期設定は Windows 右下のタスクトレイの IPstage アイコン  から設定します。



Windowsのコントロールパネル>デバイスマネージャー>ポート



COMポート15
COMポート16

設定は

1. 利用する機器の□にチェックを入れます。
振動計と騒音計はポート番号で違いますので間違えないようにします。
2. ボーレートを選択します。ポート番号を設定します。
ポート番号はコントロールパネルのデバイスマネージャーで表示されているポート番号を入力します。
3. 保存ファイル名を設定します。(振動レベル.dat、騒音レベル.dat)

わかりやすい ; C ドライブ等に入れてください

C:\Users<ユーザー名>\Box\DATA \振動レベル.dat

C:\Users<ユーザー名>\Box\DATA :騒音レベル.dat

※) ボーレートは測定器側のボーレートと一致させてください。

(測定器の設定は測定器の取説、マニュアルなどをご参照下さい)

○測定データについて

1. 測定データは振動計からは 振動レベル.dat
2. 測定データは騒音計からは 騒音レベル.dat に格納されます。

(参照ボタンでチェックしてください)

Log はテキスト情報として格納されます。(将来拡張機能用)

※) 常時サインージで表示させる場合、IPstage.exe を Windows のスタートアップに登録します。

6. サインージのフォルダー説明

IP_STUDIO の配信コンテンツ (データ) は下記に入ります。

C:¥IP_DATA4_TERM

このフォルダーの中に

IPFILE.INI を入れます。

(IP_STUDIO 3 の場合は IP_DATA3_TERM)

C:¥Users¥<ユーザー名>¥Box¥DATA このフォルダーに計測データが入ります。

振動レベル.dat

騒音レベル.dat

ここに測定器からのデータが入ります。IP_STUDIO もこのデータを参照して表示します。

IP_STAGE のデータフォルダーは下記になります。

C : ¥IP_STAGE

Data

Log

IPstage.exe

IPstage.ini

※計測器からの取り込みデータの保存場所は IP_STAGE のプロパティで指定します。

騒音計

保存ファイル名 → C:¥Users¥<ユーザー名>¥Box¥DATA¥騒音レベル.dat


振動計

保存ファイル名 → C:¥Users¥<ユーザー名>¥Box¥DATA¥振動レベル.dat

※最新 IP_STUDIO 4 のデザイナーで設定時に行指定は必要ありません。

※背景画像は予め用意してください。

※IP_STAGE のショートカットも Windows スタートに入れてください。

※この  表示のときは、フォルダー設定、INI,COM ポートを確認してください。

※IP_STUDIO IVと IP_STUDIO IIIの違いなど

IP_STUDIO IIIでは、クラウドストレージを利用していないために、boxのようなフォルダー同期ができません。よって、騒音・振動計の複数台表示はできません。

Box 利用の場合もリアルタイム表示は騒音計、振動計が接続されてるサイネージになります。表示タイミングは環境によります。

※騒音計 NL-42、振動計 VM-55 のそれぞれの出力は USB に設定してください。詳しくはリオンのマニュアルをご参照ください。電池の使用ではすぐに無くなりますので、AC からの電源コードをご利用ください。

※本説明はクラウドストレージに box を利用する場合の設定について書いています。box 以外のクラウドストレージを利用する場合は利用フォルダーをご利用のクラウドストレージに変更してお使い下さい。

※各設定でフォルダー指定はご利用のシステム、環境によります。セキュリティなどは情報部門の方などにご確認下さい。

※IP_STUDIO IVスケジューラー、IP_STUDIO プレーヤーはデスクトップにアイコンがありますが、IPStage はありません。タスクトレイの小さなアイコンからプロパティをクリックして各設定をします。-

